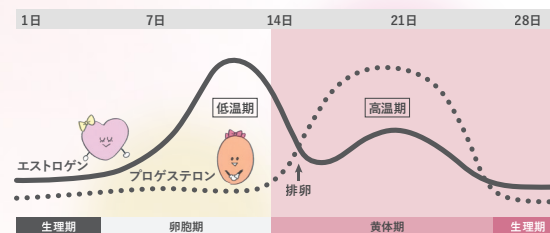
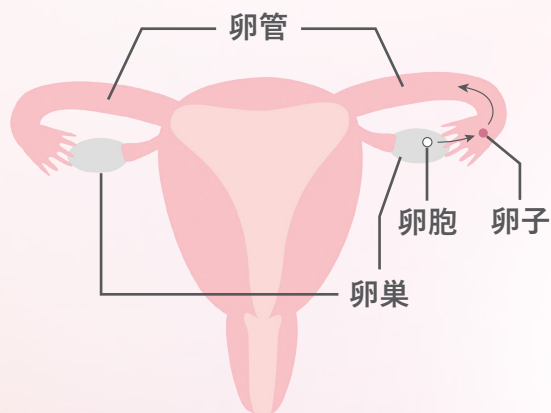


排卵から生理までの過程

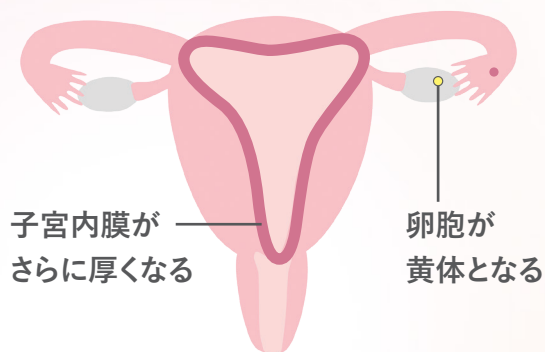


成熟した卵胞から卵子が放出され受精の準備が整います。そのあとのカラダの変化を見ていきましょう。

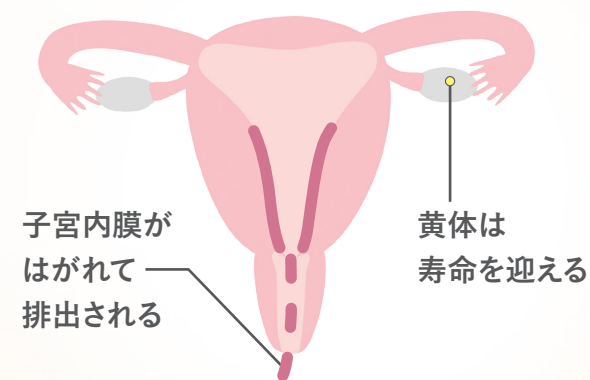
生理1日目から約14日で卵子は成熟した卵胞から卵巣の膜を破って放出され、卵管に取り込まれ、子宮のほうへ移動しながら受精を待ちます。これを排卵といいます。



卵巣に残った卵胞は黄体という組織に変化し、プロゲステロン(黄体ホルモン)を分泌します。その働きにより子宮内膜はさらに厚くなり、着床(受精卵が子宮内膜にくっつき、とどまること)準備を整えます。



受精した場合、卵子と精子は受精卵となり卵管を移動して子宮内膜に着床します。これを妊娠と言います。妊娠が成立しなかった場合、黄体は生成されてから14日程度で寿命を迎えプロゲステロン(黄体ホルモン)の分泌が止まります。それにより子宮内膜がはがれて排出され、これが生理の出血になります。



定期的に生理がくるのは卵子の成長サイクルが順調に行われている証です。

監修 早田輝子 先生
医学博士。女性ライフクリニック新宿院長。